

温室効果ガス排出量検証報告書

株式会社ベネッセコーポレーション 様

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、株式会社ベネッセコーポレーションが作成した「株式会社ベネッセコーポレーション 2018年度 温室効果ガス排出量算定報告書(スコープ1、2、3)」(以下、「算定報告書」という。)に記載された2018年度のスコープ1、2、3 エネルギー起源CO₂排出量が、同社により作成された算定ルールに準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2018年度とは、2018年4月1日～2019年3月31日までの期間をいう。検証の目的は、「算定報告書」を客観的に評価し、同社のエネルギー起源CO₂排出量の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、「ISO14064-3」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は、エネルギー起源CO₂排出量について、スコープ1、スコープ2とスコープ3のうちのカテゴリ1(購入した製品、サービス)、3(燃料及びエネルギー関連活動)、4(輸送、配送(上流))、5(事業から出る廃棄物)、6(出張)、7(雇用者の通勤)、8、(リース資産(上流))、9(輸送、配送(下流))、11(販売した製品の使用)、12(販売した製品の廃棄)の合計10カテゴリ、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は総排出量の5%とした。また、スコープ1及びスコープ2に係る本検証業務の対象組織範囲は、株式会社ベネッセコーポレーションの国内及び台北の56サイトとした。現地検証は、算定ルールを東京本部で確認するとともに、サンプリングにより選定した3サイトにて、スコープ1、スコープ2の算定対象範囲の確認、エネルギー起源CO₂排出源の確認とモニタリングポイントの確認、排出量データについて根拠資料との突き合わせを行った。スコープ3については東京本部にて、算定シナリオとアロケーションの確認、算定集計体制の確認、排出量データについて根拠資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした「算定報告書」の2018年度のエネルギー起源CO₂排出量スコープ1、スコープ2、スコープ3において、算定ルールに準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

「算定報告書」の作成責任は株式会社ベネッセコーポレーションにあり、エネルギー起源CO₂排出量の検証の責任は当機構にある。株式会社ベネッセコーポレーションと当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目25番地

一般財団法人日本品質保証機構

理事 浅田 純 男

